

番号	コード						名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名	有形・無形	現存・非現存	大分類	中分類	和暦			西暦			
251	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	2 林業	日高製材合資会社	幌満 (幌満川口)	明治35	1902	日高の豊かな森林に着目した長崎県の高森道徳が、幌満川河口の左岸に一次製材所を創設し、30馬力の蒸気機関を導入して製材を行った。工場が盛んになるにつれて幌満地区は急激に人口も増え、発展した。また、この工場の原木は、幌満川上流オナルシベ(大泉)で伐採され流送したために、作業員の中にはこの地に常駐するものも多くなったことから、その子弟たちのために事務所の一部を特別教授場として開設し、これが大泉小学校の始まりとなった。	改訂様似町史、様似町郷土館	
252	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	2 林業	松本製材工場	平宇	明治44	1911	広島県生まれの松本比作が、様似村大字平輪のポロサヌシュベ(アポイ山麓公園)で蒸気機関の製材工場をはじめた。ここで、箱材を多量に作って函館に送り利益をあげた。また箱材から出る半端雑材を燃料として自家用の火力発電機を振えつけた。これは16燭光の電灯を20個点灯するだけの能力があり、日高では最初の電灯となる。比作は地域の教育にも力を注ぎ、冬嶋小学校や隣地であるこの地に大きな投資をしたという。当時、松本御殿とうたわれた邸宅の基礎跡が現存している。	様似町郷土館	
253	8 様似町	1 有形	1 現存	1 産業	5 工・鉱業	製塩所跡	輪苦224ほか2 (塩釜トンネル西側)	寛政12	1800	鮭漁時期の塩蔵用として使われたといわれ、製塩方法は、海水を汲み上げて、丘の上に掘えつけた釜で煮詰めるというものであった。幕府で製塩をはじめたのは蝦夷地では、様似と根室の2箇所であった。鉄釜の破片が出土し、塩釜遺跡として埋蔵文化財包蔵地として指定されている。	改訂様似町史、ふるさと絵本さまに昔むかし、様似郷土館、新様似町史	
254	8 様似町	1 有形	1 現存	1 産業	5 工・鉱業	日本電工(株)日高工場	大通り3丁目	昭和9	1934	幌満川水力電気(株)として発足し、第1発電所の建設から始まり、以来、第2、第3発電所が建設され、社名も東邦電化(株)から、日本電気冶金(株)と合併して日本電工(株)日高工場と改称。現在の設備は、エルー式開放型電気炉1基、珪酸マンガン苦土石灰肥料製造設備1式で、フェオアロイ(シリコマンガン)、珪酸マンガン苦土石灰肥料を生産している。第2発電所、第3発電所は年間5,500万Kwhを出力している。	様似郷土館	
255	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	5 工・鉱業	様似の酒造方跡	栄町	文化2	1805	オコタヌ(栄町)に新築された当時の等・院と道を隔てて相對していた。酒類だけでなく、味噌、しょうゆも醸造しており、酒造方小屋1、こうじ室1、米搗き場1、酒造蔵2、酒板蔵2、雑小屋1、水車小屋1の建物があった。昭和8(1933)の様似川堤防修築工事のときこの跡が発見された。	改訂様似町史、様似町郷土館	
256	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	5 工・鉱業	砂馬荷(しゃまに)の陶窯跡	栄町	文化2	1805	オコタヌ(栄町)の様似酒造方の建物と並んであった。北海道で最も古い陶窯として史家や陶芸家たちの間では興味ある資料として以前から取り上げられていたが、施設の場所がまったく不明のため断念していたが、昭和8(1933)の様似川堤防修築工事のときにこの跡が発見された。	様似郷土館	
257	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	5 工・鉱業	日高水銀鉱	新富	明治40	1907	函館の人浅倉夕満が採掘をはじめたが、精錬法が拙劣でその実績が上がらなかった。大正11(1922)、ドイツ人ドクトル・ハインツエルマンの調査指導を受けて、彼の考案したレトルト式精錬法を採用して好成績を上げたが、同氏が去って以降は短期指導の知識ではその装置運営の技術が未熟であるため、能率を維持することができずついには廃止となった。	様似郷土館	
258	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	5 工・鉱業	東金山鉱山跡	新富223-5 (海辺川)	寛永12	1635	海辺川の支流ポロナイの水源地に金鉱が発見され、幕府によって採掘が始められる。寛文9(1669)のジャクシャインの戦いの際、その坑口が隠され所在不明となっていた。その236年後、明治38(1905)に様似住人糸井弁吉によって採掘が始められ、廃坑に行き当たったといわれるが、採算が取れず中止された。昭和7(1932)に日勝金鉱株式会社が採掘にかかったが3年で中止となった。金鉱封鎖後40年を経過した昭和50〜56(1975〜1981)まで、様似町郷土史研究会が中心となって金鉱跡地発掘調査が行われ、当時8坑あったといわれる坑口のうち3坑のほか精錬所跡地等が発見されている。昭和55(1980)に文化庁埋蔵文化財包蔵地に登録された。	様似町史、改訂様似町史、新様似町史、様似町郷土館	
259	8 様似町	1 有形	1 現存	1 産業	7 道路	幌満川の橋	幌満	大正11	1922	幌満川にはじめて架橋されたのが大正11(1922)で、木造の橋であった。以来、昭和2に架橋された天然石とコンクリートを巧みに利用した近代的永久橋。昭和42(1967)に国道ルートの一部変更に伴って新架橋。さらに平成10(1998)、防災工事として行われた新トンネルとルートの変更にあわせて幌満大橋が架設された。新旧の橋とトンネルを見比べることができる。	新様似町史	
260	8 様似町	1 有形	1 現存	1 産業	7 道路	様似山道	冬島〜幌満	寛政11	1799	安永年間の頃から、東蝦夷地の近海を往來するようになった外国船に脅威した幕府は、北方警備と陸上交通の利便を図るために、大河内善兵衛を指揮者とする調査隊を派遣した。調査隊の拠点を様似に置いて、直接調査にあたった近藤重藏、最上徳内などの進言によって、冬島〜幌満間6.995mの行程を、中村小市郎が工事担当者となり、官営道路として開削された。当時の山道は粗末なもので遠回りであり、高低曲折もはなはだしく、そのため、波の穏やかな日は旧道の海岸を通り、山道はしたいに時化のときだけ利用された。山道開通後の享和2(1802)に南部藩(浦河駐留)が補修を行い、これまでより往來が容易になったが、利用は少なく荒たのみ重宝がられていたという。その後、シャマニ会所が手入れを行ってきたが、明治2(1869)、会所廃止後は修復することもなく放置されていた。昭和60(1985)に様似町指定有形文化財となる。	史跡と名勝、様似町史、改訂様似町史、さまにの文化財、様似山道、様似山道物語	
261	8 様似町	1 有形	1 現存	1 産業	7 道路	平宇山道	大通〜冬島	明治36	1903	この山道は、日本電工(株)前からはじまり、現国道の山斜面や台地を越えて冬島市街に至る道路で、古い時代には海岸に突き出た岬を避けて往來した人々によって踏み固められただけの自然道で、様似山道につながる道路として利用されていた。明治36(1903)の道路工事で、この自然道が拡幅修復されて以来、荷馬車も往來できるようになり、近郷との物資交流の役割を担った。	様似山道物語、様似郷土館	
262	8 様似町	1 有形	1 現存	1 産業	7 道路	明治時代のトンネル	冬島	明治24	1891	様似山道下の通称日高馬渡と呼ばれている冬島幌満間の第1期工事で11箇所のトンネルが掘られた。このトンネルを請け負い担当したが、当時浦河に在住していた福井県の人田中五郎右衛門である。現在は、道路開発によって幌満と冬島の2箇所だけに残存しているが、冬島では明治、大正、昭和と3時代のトンネルが3つ並んでいるのが見られる。	様似郷土館	
263	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	7 道路	塩釜山道	輪苦	明治37	1904	塩釜山道は輪苦地区で生産された水産加工品を、様似の回漕店に運搬するための唯一の輸送道路であったが、オショロコツといわれる峠あたりは、風が強くぬかるみの多い難所であった。また、輪苦小学校が当時キンタナイにあった様似小学校に統合されていた一時期、学生児童の通学路でもあった。大正11(1922)に新国道が完成し、同時に塩釜トンネルも開通したことで廃道となった。	様似郷土館	
264	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	8 その他陸運	様似の駅通	—	明治2	1869	19世紀の初頭、江戸幕府が蝦夷地を直轄した時代に、会所や運上屋が整備され、運送、人馬継立、宿泊などの駅通業務を行ってきたが、開拓使時代以降にも駅通所が設けられ、取扱人をおき、手当てと官馬を支給し、旅行者や開拓移民の拠点として、また、各地域間の通信業務を担当してきた。初め駅所として様似会所支配人矢本藏五郎が旅館屋とともに経営。	改訂様似町史	

番号	コード						名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名	有形・無形		現存・非現存	大分類	中分類			和暦	西暦		
		有形	無形									
265	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	9 水運・海運	砂馬荷(しゃまに)仮造船所	様似川河口	寛政11	1799	幕府は7年を限って東蝦夷地を直領とし、場所ごとに会所を設け直制刷を布いたことから、本州からの蝦夷地に送る物資が急激に増加し、それに伴って輸送機関である官船や買上船が不足したために各地に建設した造船所のひとつ。寛政12(1800)から享和3(1803)までの4年間で、凌風丸、飛竜丸、翔鳳丸、済通丸、鳴鶴丸、萬春丸、豊泰丸、天福丸など11隻の巨大な官船が五葉松などを使って建造された。1900石積み御用船で、赤く塗られていたため『赤舟』とも呼ばれていた。帆に日の丸を染め抜き、五色の吹流しをたなひかせ、大海を乗り切っていたといわれる。総船頭は高田屋嘉兵衛であった。現在は遺跡としても残っていない。	改訂様似町史、日高今昔叢誌	
266	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	9 水運・海運	様似の渡船場	栄町～大通り	寛政11	1799	寛政年間から始まった渡船場は、駅通事業と並び重要な交通機関で、往来する人たちの橋渡しをする大事な役割を担っていた。様似町では、様似川、二漢別川、幌満川、幌別川の4箇所があり、渡し舟を官給していた。特に幌満川の渡船場は様似山道を経る重要な役割を担っていた。明治後期から海岸道路が整備され、架橋工事により、様似川は明治36(1903)に、幌満川は大正11(1922)に、二漢別川は大正13(1923)に廃止された。	改訂様似町史、様似町郷土館	
267	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	鵜苦(うとま)神社	字鵜苦306番地	江戸時代	不明	祭神は保食神で、神明造葎葎の建物、会所時代に漁場稲荷として奉祀されていた。明治37(1904)に第1次鵜苦尋常小学校跡に新築奉遷し、大正9(1920)に現在地に移転された。	改訂様似町史	
268	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	住吉神社	潮見台10番地	宝永元頃(創基)	1704頃	住吉神社に伝わる記録では、年代などに大きなずれがあり、立証できないが、寛永の初年頃、住吉神社の護符が海上に漂流しているのを発見し、これを後のエンルム三社(観音堂、稲荷社、船玉社)に合祀し、海上の守護神として尊崇したとある。文化10(1813)以降、明治2(1868)まで、様似場所請負人であった佐野屋仙右衛門が、シャマニ会所の近くに弁財天(船玉神)を主神とする神殿を新築し、エンルム三社を合祀したのが始まりといわれるが、ここでは住吉神社の名が出てこない。明治8(1875)北海道開拓使が、神仏混交の整理を行ったのに伴い、様似郡代矢本蔵五郎からの郷社改正の奉願書によって、新旧3神を合祀する住吉神社として認可され、様似の郷社と公称された。明治28(1895)に大暴風雨により倒壊し現在地に移転し、現在の社殿は昭和12(1937)に改築落成したものである。	改訂様似町史、新様似町史、様似郷土館	
269	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	等・院	本町	文化1(創基)	1804	幕府の東蝦夷地における本格的宗教政策として、場所で開催和人の宗教行事の執行や宗門改めを行うとともに、ロシアの千島列島南下に伴うキリスト教の侵入防止などのために建立された蝦夷三官寺(有珠善光寺、厚岸国泰寺、様似等・院)の筆頭寺で、道内でも由緒ある寺院の一つ。オコタヌシ(現栄町)に建立され、勇払から幌泉までを管轄した。文化8(1811)に護摩堂も建立されたが、文化14(1817)に熊害などの理由により移転を出願し、文政元(1818)に浜御長屋に移転、文政4(1821)には観音山麓のソビラウルサンナイに移転する。安政4(1857)に蝦夷三官寺の受持場が廃止されてからは衰微の一途をたどるが、明治23(1890)に塚田純田が再興する。昭和40(1965)には、護摩堂を現在地に移転して復元新築し、同年様似町指定文化財となる。薬師如來三尊仏像、弁才天像が現存する。	史跡と名勝、改訂様似町史、磯石経の世界、様似町HP、日高今昔叢誌	
270	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	等・院護摩堂	本町	文化8(創基)	1811	天台宗と真言宗だけに伝わる大切な行事、加持祈禱、弘道修行の道場としてオコタヌシ(栄町)に寺院と併設して建立された。その後、川の氾濫や熊などの被害でシャマニ会所に避難し、仮寺院とした。文政4(1821)にオコタヌシからウルサンナイ(本町)に本堂、庫裏とともに引寺移転した。現在の建物は昭和40(1965)に、等・院の新築移転の機会に旧建築様式を用いて復元したもの。同年、様似町指定文化財。	改訂様似町史、様似郷土館	
271	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	竜山山智教寺	本町2丁目105	明治22	1889	説教場から発足。宗派は真宗大谷派、本尊は阿弥陀如来、開祖は谷口智幢。境内には、道南以北ではここだけといわれる、江戸時代の墓石群9基がある。	改訂様似町史	
272	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	竜神(ガンビの神様)	大泉林道(ピンネシリ岳登山口)	不明	不明	根元に大きな洞穴のある白樺の大樹を祀っている。水とお金に縁のある神様で、御神体は「竜神」といわれる女の神様でお願いすると雨が降るといふ。この場所にお祀した経緯は不明であるが、女性が参拝すると霊験あらたかになり雨が降るといふ。大泉林道の工事の際、この木を切り倒す予定であったが、作業員全員から反対され、計画を変更して道路を迂回させたといわれる。平成3(1991)、御神木が腐食のため無残な状態となったため、明治元(1868)に開講した東京開山講(全国各地の山岳に鎮座する神一を信仰している団体)の名で権作りで銅板葺き屋根の「竜神」小社が建立された。また、東京開山講は、明治10(1877)頃からアボイ岳自体を霊山としており、昭和38(1963)には神居山神社として、小社を建立した。	神居山神社(アボイ岳)竜神(ガンビの神様)	
273	8 様似町	1 有形	2 非現存	2 宗教	10 寺社等	等・院の旧庫裡	本町	文化3	1806	文化3に本堂とともに建築され、オコタヌシからウルサンナイに引寺したときに、本堂、護摩堂とともに運ばれた。明治13(1880)より一時中絶していた学校教育を、廃寺となっていたこの庫裏を校舎に転用して、明治19(1886)より再開した。その後、個人に譲渡され、店舗として利用された。	改訂様似町史	
274	8 様似町	1 有形	2 非現存	2 宗教	10 寺社等	エンルムの三社	エンルムの馬の背?	江戸後期	不明	観音堂、船玉社、稲荷社をエンルム三社といふ。来歴は不明であるが、寛政年間にはすでにエンルム岬に存在していたことが文献に見られる。その中の稲荷社は寛政11(1799)の会所創立のときから、改めて会所の稲荷社として奉祀されていたが、安政4(1857)にシャマニ場所請負人の佐野屋仙右衛門が会所付近に弁天(弁財天)を主神とする神殿を新築したときに、船玉神とともに合祀された。その後、会所の廃止によってその建物の払い下げを受けた矢本家に引きつがれて来たが、明治8(1875)の開拓使からの神仏混交整理にともなうて、住吉神社が様似鎮守社として公認され、船玉神(金毘羅神)が合祀された。また、観音像、弁財天像は、明治32(1899)に再興された等・院に預けられ、稲荷神は、大正9(1920)に住吉神社に合祀された。	改訂様似町史、新様似町史、様似郷土館	
275	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	阿弥陀如来	本町(智教寺)	明治21?	1888?	加賀の人中村与右衛門が明治21(1888)頃、農民として様似に移住したときに国元から守護奉遷したものを譲り受けたもの。金泥木造	改訂様似町史	
276	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	阿弥陀如来御像	本町(智教寺)	明治22	1889	説教所開所と同時に本山である京都東本願寺から下されたもの。	改訂様似町史	
277	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	三十三観音像	観音山	明治28	1895	明治28(1895)に蝦夷地三官寺等・院の中興の祖である13代住職塚田純田が信者からの寄進を仰ぎ、西国三十三番札所にならぬ、石像の観音を当時和人に円山と呼ばれていた山の上に配置し、現在は観音山と呼ばれている。	曹洞宗佛国山法光寺史、新様似町史、様似町HP、様似郷土博物館	
278	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	千体仏	本町(等・院)	不明	不明	寄進月日などは不明、高さ8寸4分、台座とあわせて1尺3寸、金泥塗り阿弥陀如来の像で、仏教に帰依した人によって寄進されたと推定される。現在、等・院には三体が残されているが、ほかの多くは日高一帯の在家に散在しており、旧等・院廃寺の際に僧侶達が衣衣に窮し一時をしのぐ為に米銭に換えたものと伝えられている。	改訂様似町史	

番号	コード					名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名	有形・無形	現存・非現存	大分類	中分類			和暦	西暦		
279	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	南無仏太子像 (聖徳太子二歳像)	本町 (智教寺)	室町時代?	—	室町時代の作といわれ、作者は不詳。元等・院御物と称されたものを失本蔵五郎が、智教寺の開祖谷口智幢のために函館で入手し、浦河正信寺に預けておいたが、智幢の説教場が建築されたので様似に移したものの、目、口、鼻が顔面中央部に集約され、緋の袴が左右腰の部分で多く開いている異例なもので、南無仏太子彫刻上貴重な作例であり、道内における室町彫刻の太子像はこれが最初の発見といわれている。昭和57(1982)に様似町指定文化財となる。	改訂様似町史、新様似町史、さまにの文化財
280	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	聖観世音菩薩像	本町 (等・院)	鎌倉時代?	—	鎌倉時代の作といわれ、作者は不詳。明治初めまでエンルム三社中の観音堂の本尊として安置されていたが、観音堂の腐朽により、明治32(1899)に等・院が再興された際に安置された。像の背部に記した光芒が普通(48本)より一本多いのが特徴。エンルム三社に安置された経緯は不明であるが、様似町最古の仏像。昭和57(1982)に様似町指定文化財となる。	改訂様似町史、新様似町史、さまにの文化財
281	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	不動明王	本町 (等・院)	文化8	1811	最初の不動明王は文化8(1811)に完成した等・院護摩堂の本尊として、公権により下賜されたもので、脇士二童子付きの坐像であったが、いつの頃からすり替えられたもの。	改訂様似町史
282	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	弁財天像	本町 (等・院)	江戸時代 前半?	—	安政4(1857)に様似会所付近に佐野屋仙右衛門が設けた弁天社に奉祀されていたもので、明治8(1875)に神仏混交整理のときに移転され、のちに等・院に預けられたもの。松井右近作。昭和57(1982)に様似町指定文化財となる。	改訂様似町史、新様似町史、さまにの文化財
283	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	薬師如来三尊仏像	本町 (等・院)	江戸時代 後期?	—	文化元、等・院が蝦夷三官寺の主席に推された当時からの本尊で、芝増上寺系芝山観音寺権大僧都秀暎に等・院住職の辞令交付がなされたとき、仏具とともに下賜された。黒田高山作。昭和57(1982)に様似町指定文化財となる。	新様似町史、さまにの文化財
284	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	和助地蔵尊	幌満	不明	不明	寛政11(1799)様似山道開削工事たけなわの頃、開削を手伝ったり、旅人の利便を図ったりするなどで、人一人から信頼を得ていた斎藤和助が文久2(1862)、91歳で亡くなったが、その後、部落民は、様似場所請負人近江屋藤五郎、幌泉場所請負人福島屋善四郎と相談し、白御影石に地蔵を刻んで、これを「和助地蔵」として建立し、永久にその遺徳を偲び、霊を慰めることとした。最初は、渡し場のあった道筋に建てられたが、明治24(1891)に海岸道路ができて現在の場所に移された。昭和8(1933)に堂宇を改築し、今の幌満の守護として毎年慰霊祭が行われている。昭和44(1969)に様似町指定文化財となる。	新様似町史、さまにの文化財、様似山道物語
285	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	智教寺の墓石群	本町2 (智教寺)	文化5~	1808~	智教寺境内にある江戸時代の墓石9基で、のうち6基は等・院霊簿(過去帳)の記載と一致し、道南以北でこれだけまとまった江戸時代の墓石群は他にないといわれる。最も古いものは、幕府の出先機関であるシャマニ会所詰めの初代医師和多理良雄のもので文化5(1808)に亡くなっている。その他、文政4(1821)に亡くなった、シャマニ場所を請負った近江商人万屋専左衛門の現地責任者である新保吉右衛門のもの、シャマニ会所医師轟千里、ウラカワ会所役人水野一郎右衛門、等・院下男善八の墓石もある。	様似町HP
286	8 様似町	1 有形	1 現存	5 伝統	12 史跡等	エンルムチャン跡	会所町36	—	—	エンルム岬の高台にあったチャンの跡で、文化庁埋蔵文化財包蔵地に指定されている。	新様似町史、様似町郷土館
287	8 様似町	1 有形	3 不明・ その他	99 その他	12 史跡等	シャマニ台場跡	エンルム岬	文政4	1821	外国船の往来が激しくなった太平洋沿岸の警備のために、各所に木材で作った大砲を配置した。弾は今の花火のようなもので、ただ破裂するだけのものではなかったが、遠望する外国船の眼をまどかし、威嚇する謀略としては十分な効果があったようである。シャマニ台場には2基の木砲が設置されていた。	改訂様似町史、様似町郷土館
288	8 様似町	1 有形	1 現存	3 生活	14 その他建築物	様似郵便局	会所町	明治8 (創建)	1875	旧様似会所の払い下げを受けた矢本蔵五郎が郵便局取締役の委嘱を受けて旧会所の一部を局舎としたことから始まり、大正12(1923)に旧役場庁舎前坂に、さらに本町2丁目へ新築移転したが、大通地区の人口増加に合わせて平成6(1994)に錦町へ新築。	改訂様似町史
289	8 様似町	1 有形	1 現存	3 生活	14 その他建築物	旧竹内家土蔵	本町3丁目	明治40	1907	当時、水産加工仲買販売業をしていた竹内直七が建築したもので、資材は屋根瓦を除き様似産の特殊材を用材として建築されている。昭和33(1958)に日高米穀株式会社で譲り受け使用していたが、昭和57(1982)に様似町に寄贈されたことから、開拓建造物として完全復元し、永久保存されている。	様似郷土館
290	8 様似町	1 有形	2 非現存	3 生活	14 その他建築物	原田宿跡	様似山道	明治7	1874	兵庫東洲本市の旧藩士原田安太郎幸孝が様似山道の途中に経営していた旅館屋の跡。土台石、石垣を組んだ跡、当時使用していた徳利や炉の跡、耕作していた畑の跡が発見されている。	様似山道
291	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	15 人物	中村小市郎	—	宝暦7?~ 文化8	1757?~ 1811	下野国馬彦村生まれ、様似会所初代詰合(責任者)で、寛政11(1799)、幕府使番蝦夷地御用掛の大河内善兵衛政毒指揮のもと様似山道開削の現場監督として活躍したといわれる。早くから蝦夷地調査に何度も来ており、天明4年(1785)に国後島まで、寛政4年(1792)には宗谷から斜里まで、様似会所勤務後の享和元年(1801)に樺太東海岸まで調査している。文化8(1811)に病氣により没する。	様似山道、サルル山道を通った人(2)、猿留・様似山道の歴史と紀行文
292	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	15 人物	矢本蔵五郎	—	文政8~ 明治27	1825~ 1894	文政8(1825)、下北郡生まれで昆布採りをしていたが、勤儉家で温厚なため、慶応元(1865)頃様似会所に入り、ついにその支配人代になった。会所廃止後は、郵便、運輸交易、旅館屋、酒の醸造などさまざまな事業を起こし、様似地方の産業・商業・運輸を一手に引き受けていた。明治12(1879)には、56トンの西洋帆船弘済丸を建造し、様似~函館間を往復就航させたが、明治25(1892)頃、様似港東東りに停泊中、大暴風雨にあつてエンルムの磯鼻で難破してしまった。明治27(1894)、70歳で没する。	改訂様似町史
293	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	15 人物	手塚信吉	大通り3丁目	明治25~ ?	1892~? ?	日高の電気王。愛知県八名郡山吉田村に生まれ、東京電灯株式会社の少年工として入社し、電気技術の習得に努め、大正3(1914)には22歳で、独立して電気工業を営む。大正15(1926)には丸電工業株式会社を創始した。この頃、浦河町にあった日高電気株式会社が経営難に陥っており、その建て直しのために昭和2(1927)専務取締役役に就任し、翌年、日高電灯株式会社を創立した。百数十キロにわたる長送電線を設置し、千歳水力発電から供給を受けるなどして、電灯と動力需用の増大を図ったが、経営は依然と苦しく、最大の欠陥である長送電線のための送電ロスによるコスト高を解消するため、日高地方のあらゆる河川を調査して、昭和9(1934)に幌満川水力電気株式会社を結成し、翌年、幌満川に水力発電所を建設した。その後、この点灯の増加や地方の工業生産の飛躍により電力供給が不足したことから、昭和13(1938)に従来の会社を北海道電気興行株式会社と改称し、第2発電所と本社日高工場の新設工事に着手し、昭和15(1940)に完成した。さらに戦後の電気不足を打開するため、資金難を乗り越えて、昭和29(1954)に、幌満川上流に6000Kwの第3発電所を建設し、これによって、幌満水系の東邦電化自家発電所ができあがり、合金鉄の生産工場が動き出した。また、東邦オリビン株式会社の創設など様似町の経済発展に業績を残した。	改訂様似町史

番号	コード						名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名	有形・無形	現存・非現存	大分類	中分類	和暦			西暦			
294	8 様似町	1 有形	2 非現存	2 宗教	15 人物	慈真	—	不明	不明	等・院第8世住職で、常に馬にまたが広い地域を巡回していたので「馬追い上人」と呼ばれた。病馬等を預かり治療していたものが繁殖して増え、幕府の許可を得てシャマニ牧を開設した。等・院の記録の整理も行った。	改訂様似町史	
295	8 様似町	1 有形	2 非現存	2 宗教	15 人物	谷口智幢	—	天保7	1836	天保7(1836)、秋田県仙北郡内小友村生まれ、智教寺の開祖。廃寺後の等・院の庫裡を仮の住居とし、護摩堂に残された観音像(元観音堂の本尊)を守るなど、その退廃を防いだ。	改訂様似町史	
296	8 様似町	1 有形	2 非現存	2 宗教	15 人物	塚田純田	—	慶応3～昭和9	1867～1934	慶応3(1862)、埼玉県生まれ。明治23(1890)に等・院を天台宗様似脱教場として再興した。明治28(1895)に丸山(観音山)に観音の石像を立てる。昭和9(1934)に没する。	改訂様似町史	
297	8 様似町	1 有形	2 非現存	2 宗教	15 人物	秀暁	—	不明	不明	等・院初代住職。下総国吉崎村生まれ。寛政7(1795)に上総国武射郡芝山観音寺の住職となり、宗門では前座役などの要職を務めていた。享和3(1803)、幕府は観音寺住職のまま向う10年東蝦夷地の寺院へ派遣することとし、文化元(1804)、共の者11名と蝦夷地へ旅立ち、函館奉行の指示により様似に向かった。文化3(1806)、本堂と庫裏の普請にかかり、完成の際には近隣の和人のみならずアイヌの人一も招き、本尊である薬師如来の勧請供養を行った。また、海難者追善供養のために1石に1字ずつ妙法蓮華経如来寿量品を写経するなどして、言葉の通じないアイヌの人一に対して直裁的行為を通して、視覚的な布教効果を図った。文化4(1807)、函館達奉行に護摩堂の普請を願い出るが、その許可を見ままま44歳でなくなった。	礎石経の世界	
298	8 様似町	1 有形	2 非現存	3 生活	15 人物	斎藤和助	幌満	明和8～文久2	1771～1862	寛政11(1799)頃、南部(現在の青森県太平洋側)から様似町に移住し、昆布等を採取して生活していたが、様似山道開削工事の際、用具の工面や作業者の面倒を見るなど協力し、また、休息所や旅宿の世話等旅人の利便を図るなどし、その功績により山道が開通したとき、冬島から幌満川までの地域の海産物の自由採取権などが与えられた。それによって一種分限者となったが、部落の人一との親和協力は続け、絶大な信頼を得ていた。しかし、文政4(1821)に、直轄領が松前藩に返された際、その権利は没収、追放され姿を消した。安政3(1856)、再び幕府直轄領になったとき、どこからか戻って、あいかわらず部落のいろいろなことに協力しながら平和な衣生活を続けた。文久2(1862)、91歳で亡くなった。	改訂様似町史、様似山道物語	
299	8 様似町	1 有形	3 不明・その他	3 生活	15 人物	原田安太郎	—	文政6～明治34	1823～1901	文政6(1823)、淡路の洲本生まれ。性剛毅沈着、温顔強力で、しかも武術に秀でていたので、君寵を集めていた。明治4(1871)、開拓移民団として静内に入植し、間もなく火災にあって財産を残らず焼失した。その後、目名に行って開墾を始めた。この頃、浦河郡役所が住民の安全とならざる者の取締を兼ねた仕事に肝の太い、武術に秀でた人を探していたのに応募し、この難所に、明治7(1874)、物騒な状況の中で旅館屋の経営を始めた。稲田家の倉庫火災のときの保管責任者であったことから、その責任をとるために様似に来たともいわれる。明治34(1901)、79歳で没する。	様似町史、様似山道物語	
300	8 様似町	1 有形	2 非現存	99 その他	15 人物	児玉喜左衛門	キリシタナイ	不明	不明	天草島原で発生した切支丹宗徒の反乱の敗残者として様似ウヅツ川の支流ポロナイ水源の東金山で働いていたが、正保元(1644)に松前藩につかまりただ一人江戸に送られた。人格に優れており、島原城内でも知名の武将と考えられる。	改訂様似町史	
301	8 様似町	1 有形	2 非現存	99 その他	15 人物	対馬政雄	冬島	明治26～?	1893～?	青森県に生まれ、北海道師範学校2部を卒業後、様似小学校に赴任し、大正4(1915)に冬島小学校に校長として栄転した。以来、アポイ岳の高山植物に魅かれて、休日のほとんどはもっぱら植物採集に費やし、標本を作っては北大、東大に送って指導を受けながら研究に没頭していたといわれる。後年、北大の宮部金吾博士とも懇意となり、その愛弟子である近藤金吾は13回もアポイ岳に上り、また、館脇博士が「アポイヌプリの植物」と題して423種をあげているが、それらへの影響は対馬政雄の研究宣伝に端を発したといわれる。彼の研究成果は、「ヒダカソウ」の発見を含め新種15種、北海道初発見3種、日本初発見5種、新変種1種、珍種2種その他14種、計40種が報告されている。	改訂様似町史	
302	8 様似町	2 無形	1 現存	5 伝統	16 民話・伝説等	アポイ岳の名の由来	—	—	—	昔、鹿はアイヌの人達の食生活上重要なものであったが、なぜか様似一帯にはその影も見られなかった。アイヌの人達はカムイにお願いして授けてもらおうと協議し、その祭場を冬島の奥にある山の頂上に選んだ。そこで頂上に祭壇を設けて、刀を飾り供物を上げ燃え草を積み重ね、これに火を付けて一団の火の玉を作った。この火にてらされた祭壇に、アイヌの人達が並び鹿のお授けを祈った。その甲斐があつてだんだん鹿が繁殖して、今日の様似の名物となった。そこでこの山をアペイオヌプリ(火が多くある山)と呼んだ。	改訂様似町史、ふるさと絵本さまに昔むかし	
303	8 様似町	2 無形	1 現存	5 伝統	16 民話・伝説等	イマニとオショロコツ	塩釜	—	—	巨神アイヌラックルが国造りをして歩いているときに、空腹になったため大鯨をつまみ上げヨモギの串に刺して焼いていると、突然串が焼け折れて鯨がたき火に落ち、びっくりした巨神がしりもちをついたところがオショロコツで、焼き串が岩になってイマニ(ローソク岩)になった。	改訂様似町史	
304	8 様似町	2 無形	1 現存	5 伝統	16 民話・伝説等	うまい水	鶴苔	—	—	昔、国造りをして歩き回った巨神アイヌラックルが、蝦夷各地の水を飲んでみたが、鶴苔のワッカクナイの水ほどうまいものはなかったとほめたという。	改訂様似町史	
305	8 様似町	2 無形	1 現存	5 伝統	16 民話・伝説等	カシカムイ(宝物)	幌満	—	—	ホロマンベツ(幌満)にあるアイヌの一家が暮らしていたが、ある日、兄弟が二人で川漁りに出かけ日暮れになって帰ってみると一族が略奪団に皆殺しにされていた。兄弟の身辺も危ないで恨みを飲んでその家を後にし、足跡を忍びさせて幌満川支流を遡って逃げた。アポイヌプリ(アポイ岳)の中腹の山道にでてベツサンベツ(冬島川)の水源を横切ろうとしたとき、二匹の鱒が月の光で銀色に輝いていた。これはカムイからの授けりものと喜んで手捕りした。空腹を満たそうと腰のマキリをとって腹を割いたところが、どちらからも一ふりずつのカシカムイ(宝刀)が出てきた。この兄弟は落ち延びてサル(沙流郡)に落ち着いた。不思議なことにこの兄弟には、それからどんな略奪団も勝つことができなかった。さすがに勇猛なトカチアイヌもサルに侵略ができなかったのは、このカシカムイのおかげであつたといわれ、義経がねらつたといわれている宝物はこのカシカムイのことである。	改訂様似町史	

番号	コード						名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名	有形・無形	現存・非現存	大分類	中分類	和暦			西暦			
306	8 様似町	2 無形	1 現存	5 伝統	16 民話・伝説等	サルサインの血族	幌泉	—	—	昔、幌泉に一人の心がけも立派な美女があり、コタンの青年の中には密かに思いを寄せて悩む者も多かったが、彼女は決して誰のものでもなかった。幌泉の山奥にはキムンカムイ(熊のこと)の兄弟二人が住んでいたが、兄のトヤイピンナは願いがかなってこの娘と結婚して家庭を作り、弟のサルイサンもニカンベツの美女と結婚した。この子孫は熊の血統であるから山で熊に出会ったときは「私はサルサインの血統である」としかれば害を与えないと言われ、様似町にもその血統がいるという。	改訂様似町史	
307	8 様似町	2 無形	1 現存	5 伝統	16 民話・伝説等	冬島の穴岩	冬島	—	—	昔、エゾモシリ(蝦夷地)にウエンカムイ(悪神)がいてアイヌの人達をいつもいじめていた。これを聞いたオタルナイ(小樽)付近の山にいたラッコカムイ(美神)が、たいそう怒って攻めてきた。敗走したウエンカムイが冬島の穴岩の手前にきてうろろしているのを、追跡してきたラッコカムイは、オンコの樹の弓によもぎの征矢を蓄えて射ると、うまくはずされて穴岩にあったので穴岩が開いてしまった。	改訂様似町史	
308	8 様似町	2 無形	1 現存	5 伝統	16 民話・伝説等	三つの岩	西町、冬島	—	—	昔、東の方で戦に負けた酋長が妻と子供を逃がしたが、様似まで来たときとても逃げられないとあきらめて子供を抱いて海にはいると岩になってしまった。これがソビラプンゲ(今のソビラ岩又は烏帽子岩)である。妻の跡を追って逃げてきた酋長はこれを見て安心し自分ものその西に並んで岩になったが、追いかけてきた敵酋長がこれを見て悔しがり矢を放ったところ岩は三つに割れ、これがウンベラプンゲ(今の親子岩)である。その矢は岩になっている母子にも命中して腰から下を払い飛ばした後、さらに一転して空高く舞い上がり、遠くの冬島の穴岩に当たって穴岩を開いた。この岩がフオマシユマ(今の冬島の穴岩)である。	改訂様似町史、ふるさと絵本さまに昔むかし	
309	8 様似町	2 無形	1 現存	5 伝統	17 祭事・芸能	様似民族文化保存会	—	—	—	昭和59(1984)に国の重要無形民族文化財に指定された「アイヌ古式舞踊」の保存団体として、平成6(1994)に指定され、その伝承を行っている。	浦河町立郷土博物館資料	
310	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	99 その他	等・院古文書	本町(等・院)	享和3	1803~	享和3(1803)の創世住職秀暁から万延元(1860)10世住職道までの住職記録で、住職記11冊と什物帳1冊、過去帳(帳簿)1冊、書付(寺録低減法通知書)1冊からなり、様似町最古の文書となっている。使用什器一切と仏像図書まで記載しており、また寛永13(1636)から明治27(1894)までの594柱の霊簿は、勇仏から幌泉までの広域に渡っている。明治8(1875)~18(1885)の間に寺録を減減するという通達文書もある。昭和58(1983)に様似町指定文化財となる。	新様似町史、さまにの文化財	
311	8 様似町	1 有形	1 現存	2 宗教	99 その他	観音山の御神木	潮見台	—	—	明治28(1895)に等・院の中興の祖である塚田純徳が三十三観音の石像を安置した観音山の頂上にあり、御神木として敬愛されている樹齢400年以上といわれるカシワ。直径116cm、樹高12m。昭和48(1973)に北海道記念保護樹木に指定される。	北海道記念保護樹木指定台帳、新様似町史、様似町HP	
312	8 様似町	1 有形	1 現存	3 生活	99 その他	エンルムの泉	エンルム岬西側	不明	不明	時代は不明であるが、一説によればアイヌ時代から使われていた湧泉で、海岸近くにありながままつく塩分が含まれていない清水であったことから、いつの頃から設備を整えた井泉として使われるようになった。また、様似会所時代には、これとは別に会所の井戸と称するものが2箇所あった。	改訂様似町史、様似郷土館	
313	8 様似町	1 有形	1 現存	4 教育	99 その他	様似郷土館	会所町	昭和42	1967	昭和40(1965)から様似町内の文化遺産調査を開始し、その結果、予想以上に保存されていることが判明したことから北海道100年記念事業として開館された。当時は日高支庁管内に類似施設がなかったため「日高郷土館」と名づけたが、その後他町で建設され、昭和43(1968)に「様似郷土館」と改称された。シャマニ場所絵図、シャマニ会所棟上札、矢本家の古文書などが展示されている。		
315	8 様似町	2 無形	1 現存	4 教育	99 その他	様似町郷土史研究会	—	昭和37	1962	先住民族の遺跡、埋蔵物の発掘調査や、アイヌ民族に関する資料収集を行い、町史の追加史を作成するため発足。一時休会となったが、昭和40(1965)に開道100年を控えて全道的な開拓財産調査が行われることとなり、様似町における調査を実施した。「様似のあゆみ写真集」の発行、「様似山道」の整備保存、埋蔵文化財の保全なども行っている。	新様似町史	
314	8 様似町	1 有形	2 非現存	1 産業	99 その他	様似会所	会所町	寛政10	1798	太平洋沿岸を直轄とした幕府は、油駒場所を幌泉と様似場所に分割し、松前藩の運上所であった建物を幕府直轄のシャマニ会所と改め、東蝦夷地調査の拠点としたが、これが様似会所の始まりとされている。当時幕府が直轄した各所に開設した10会所の一つであった。文化6(1809)、建物は改築され、秋田杉を用いて133坪となった。以来、調査隊をはじめ、役人、豪商たちの宿泊の場として使われた。その後、座敷、料理場、帳場などを増築し合計182坪となった。最初は石屋敷であったと言われるが、後に柱葺板、二重囲いの建物となった。明治2(1869)に会所が廃止され、明治8(1875)に様似住人によってシャマニ会所支配人代であった矢本蔵五郎に払い下げられ、鮭建網、宿所、駅運を經營し、その後も子孫が住んで、商業の拠点となり、様似町発展の基盤となっていたが、昭和33の台風により損壊し、解体された。会所の付属施設として、文政7(1824)に2棟の長屋が建てられたが、会所の真向にあったものを「浜御長屋」と呼び、調役、調役下役、御雇医師といった高級官吏のためのもので、少し離れたところにあったものを「エンルムの長屋」と呼び、下役のためのものであった。浜御長屋は、等・院がオコタヌシから熊害を避けて移転し、4年間の仮寺院となった。また、様似詰調停役下役木川直右衛門昭胤の子正之助、後の俳人岡野知十が生まれたところでもある。明治8には神官齋坂泰胤により寺子屋式学校として使われ、明治13(1880)には5か村戸長役場に転用されたが、昭和30(1955)に腐朽がはなはだしく解体された。	改訂様似町史、日高今昔叢誌、様似町郷土館	
316	8 様似町	2 無形	2 非現存	1 産業	99 その他	様似場所	様似郡一帯	不明	不明	場所制度とは、蝦夷地では米作が石高制をもって家臣の給料を定めることができなかったため、松前藩が交易その他による収益を見込んで各地を場所と区分し、これを知行として家臣に配分する方法で、当初「オムシャ」といわれる方法でアイヌの一人と交易を行っていたが、その後、場所請負制がとられ、請負人や支配人によって運営されるようになったが、アイヌの一人を酷使し、また、不当な交易をすることが多かったといわれる。様似は幌泉と合わせて油駒場所といわれ、松前藩の蛸崎蔵人広樹が知行主で、天明(1781)ころは栗屋次兵衛が請負人であった。寛政(1791)には、浜屋久七が請け負い、寛政11(1799)には権原庄兵衛が請け負っていた。同年、幕府の直轄となり、油駒場所を様似・幌泉場所に分割し、その境界を冬島のコンケベシとした。文化9(1812)に幕府は直轄を廃止し、入札による請負制をとり、松前の萬屋専右衛門(その後佐野屋と改称)が請け負った。明治2(1869)に廃止されたが、その当時は浦河、静内場所も請け負っていた佐野屋仙右衛門が請負人であった。	改訂様似町史	